十二ページ　日刊

磐城時報

編輯兼發行人　岡田弘成
印刷人　同所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十四
發行所　磐城時報社
福島縣石城郡平町紺屋町十五
一部金貳錢　一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
日刊（日曜、祭日休刊）
郵送料金拾錢

堀江氏が最高で　松永氏が貧乏籤

平町の家調委員選擧

平町に於ける家屋稅調査委員選擧は同町元商業學校に於て行はれた、十日午後二時になつて井上茂作氏が立候補届出をなし立候補者は定員より一名超えて十六名となつた關係からいよ〳〵選擧氣分となり、十日夜は三人五人と隊を組んでどうぞと昔なつかしゝ戸別訪問が各派共に行はれる、滯納者も續々納稅して流石有產者としての得意の一票を入れる有權者は約千四百で衆議院の三分の一だから會場の混雜も無く、警察の警戒もなく投票場は明かるくのんびりとしてゐたが、誰かは一本の貧乏籤をひかねばならぬので、候補者は外の選擧よりも胸を痛めたらしい、尙投票の結果は投票總數千百十七票で有權者名簿登載千五百二十二に對し四百五票即ち二割六分の棄横並に死亡失格があつた。

當選
一一六○堀江正茂（政）
一○六○井上茂作（政）
八四○野崎滿藏（民）
七九○櫛田榮太郎（政）
七七　鍋田三重政
七六○前澤文太郎（民）
七二○齋藤寅吉（政）
七五○馬目玉彌（中）
七二○鈴木重助（中）
六六△長　小次郎（民）
六六○會川延太郎（政）
五○△吉村安次郎（民）
四九△荒川袋次郎（民）
三五△荒木忠夫（民）
二二　松永友太郎（民）
一　綠川喜三郎

次点

平附近二十二ヶ町村の家調委員當選者

平警察署管内家屋稅調査委員當選者左の如し。

▲湯本町（十二名）上川才松、木村德三郎、若松孝平、若松利惣治、矢吹佐市、峯清吉、鯨岡愿道、矢吹莊司、若松條助、若松忠兵衛、渡邊長作、高木守彌

▲小名濱町（九名）野崎丞之助、草野良太郎、松本德次郎、水野順弘、馬上兵吉、小野晉平、堀貞吉、國井忠太、小野豊十

▲江名町（九名）作山清七、加澤一造、太乘吉、馬目朝吉、坂本平四郎、坂本與惣兵衛、薗部善之助、近藤吉松、伊藤昇

▲内郷村（十五名）大越寅吉、大越勝之助、池田源之助、平田良藏、澁澤鶴松、宮本鐵太郎、薗部末藏、佐藤三平、山崎佐一郎、菅波忠治、大平彌惣治、齋藤清太郎、山崎喜一、加藤丈夫、草野佐一郎

▲飯野村（六名）箱崎才三郎、北郷喜多治、永山菊治、木村公三郎、江尻多吉、志賀忠之助

▲夏井村（六名）矢吹豊、小林清六、木田銀次郎、鵜沼喜六、坂本善久、箱崎玉之助

▲高久村（六名）本間武、小野淺治、鈴木喜太郎、松本作治、箱崎半右衛門、鈴木林之助

▲鹿島村（六名）新妻賀雄、吉田政次、荒川千松、鈴木大藏、波立佐一、鈴木一男

▲豊間村（六名）阿部源兵衛、鈴木留吉、鈴木繁松、遠藤嘉吉、鈴木金五郎、志賀重右衛門

▲玉川村（六名）駒木根忠三、長瀨主人、鈴木平九郎、丹清彌、新妻安吉、中野廣

▲磐崎村（十二名）佐藤八郎、瀧有司、大井川半兵衛、大平佐久間芳賀食太、矢内彦次郎、金成仙藏、箱崎恒彌、岩並政雄、吉田陟、野木友太郎、太田原憲太郎

▲好間村（十二名）大平新吉、大平國治、佐藤藤作、金成淺治、鈴木重行、井出林太郎、木田孝平、鈴木茂作、伊藤庄助、鈴木清藏、中村政行、緒方溜治

▲赤井村（九名）金成新衛、磯上彌之松、吉田佐内、猪狩忠人、吉田萬吉、菅野三郎、田久彌七、柴崎春雄、矢野采女

▲平窪村（六名）鈴木重次郎、長瀨源三郎、實塲登一、松崎銀之助、鈴木勇、福田國吉

▲神谷村（六名）佐藤安次郎、佐藤久助、鈴木善壽、酒井長一郎、菅兵庫、西郡忠助

▲上下小川村（六名）國井義、草野定藏、吉田榮男、柴崎佐之吉、箱崎秀治、吉田長光

▲澤渡三阪（六名）室原慈助、阿部直衛、大竹克彦、永山久助、松崎安房、小平慶治

▲永戸箕輪（六名）吉田豊實、蓑谷信雄、平山柳藏、合津忠男、遠藤宗重、大和田粂雄

勿來町は横山氏落選

植田は無競爭

石城郡南植田町の家調委員選擧は既報の如く無競爭裡に行はれ候補者全部當選したが、勿來町は十日に至つて中野信藏氏が立候補したため定員一名超過となり横山太一氏が落選した。

四倉町の開票結果

石城郡四倉町家調委員の選擧結果左の如し。

六一大和田安太郎、五八小港宗吉、五八小港平次郎、五六長谷川西次郎、五五長谷川寅次郎、五四上出萬次郎、五三金成岩吉、五二遠藤安次郎、三八豊田盛次、▲次点吉田壽三郎

▲大浦村（六名）九〇渡邊金治、五七鯨岡榮造、五六猪狩清次郎、五七鈴木長治、五〇酒井良平、三九高崎兼次郎

▲大野村（六名）八五中野幸平、七五鈴木明、六五吉田盛次、五九久野藤吾、五五小野善太郎

水害豫防組合

平町外二ヶ村聯合水害豫防組合會は十二日午前十時から平町役場議事堂に開き補助工事の件について打合せた。

十圓贋造紙幣

平町字銀治町吉田伴吉氏方で十日集金したものゝうちに贋造の十圓紙幣が一枚あつたのを發見届出でたので平署で取調中である。

磐高女　關西旅行だより

（五）――彌生記――

昨夕刻、赤々と海に映じた太陽を拜したよろこびが、朝日の窓にさしこんだのに一層の幸を感謝して床を離れた。低く富士も見えてゐる。二見を立つては全く歸途氣分で夜汽車で通つた東海道を眞晝間、滾名湖の美を讃し、富士の高峰をまともにながめて、ひたすら走りに走つた。江の島は全く夜中氣分で宿の迎ひの提灯も物々しい氣がしたが中天には弦月かゝり、城ヶ島の燈臺の点滅する、全く神秘境に入つた心地、江の島での夜明はまた一入であつた。富士が朝霧より益々明瞭に浮び出して來る。相撲灘の風がやはらかに周邊の隆起海蝕臺地緣をうつてゐる。江の島は完全に砂州に依つて陸に繫がれ、所謂「陸繫島」をなしてゐるのである。

鎌倉にては、小學校の教科書で覺えた「七里が磯づたひ」をしきと口づさむ。露座の大佛、八幡宮、鎌倉宮を巡して東京に向ふ、疲れが遺憾なく表はれて、窓外を見入る者も誰れもない、上野公園のながめも余り興をひかず、上野發のを自分の汽車の樣な氣持で乘り込む、一行の無事がたまらない程うれしく、平驛着の出迎ひの人々の顏々をみてはおのづと感謝の涙さいあふれ出る無事のよろこびか！

自分の頭を鐵瓶で割る

石城郡四倉町字新町黑田留次郎（三五）は十一日突然精神に異狀を呈し、爐にかけてあつた鐵瓶を以て自分の頭を毆り頭蓋骨を割り生命危篤である。

平町に小泥棒

平土木監督所で去る九日午後二時頃構内に置いた同所々有の自轉車一臺を何者にか窃取された旨十日夕方平署に届出でたが、平地方は最近白晝大膽にも玄關口から履物、傘等を失敬したり干物を掻つ拂つたりする小泥棒が横行するので平署でも手を燒いてゐる。

出版法違反　正式裁判

平町月見町舊勞農黨員大井川幸隆（二三）は昨年十一月四、一六共產黨事件に關する記事を礦山通信なる印刷物に掲げた廉により出版法違反に問はれ福島地方裁判所平支部から略式命令で罰金二十圓を言ひ渡されたが同人は直に正式裁判を仰ぐことゝなつた。

四倉の歌舞伎

四倉座では十一日から三日間歌舞伎片岡燕之助一派で開演する。

謹告

本社創立十五週年紀念事業として昨年平町に開催致候第一回縣下中學校野球大會は磐城、相馬、田村、安積の各中學校の參加を得豫期以上の盛況を納め候段各位の御聲援の賜と奉深謝候第二回縣下中等學校野球大會は來る六月廿二日平町に於て挙行致す事に相成申候間特別の御聲援に預り度く此段奉懇願候

昭和五年四月

第二回縣下中等學校野球大會

會長　唐土齊治
副會長　加藤丈夫
阿部政右衛門
主催　磐城時報社

電話線を盜む

平町内を十日午後九時頃徘徊する擧動不審の男あるを平署員が本署に連行取調べの結果この者は栃木縣那須郡野崎村住所不定飴屋舟山榮吉（二六）と稱し去る四月二十三日石城郡磐崎村三井炭礦專用電話線三貫匁を窃取した事自白した。

四倉驛取扱成績

四倉驛四月分の取扱成績貨物發送九千九百四十九噸、着は八千七百二十九噸、貨物運賃は三萬三千八百五十三圓二十一錢、乘客者一萬五千四百三十八人、降客者人員は一萬四千九百七十二人、客賃は七千三百六十一圓四十六錢、小物扱發送數は九十一個、着數は一千五十九個、手荷發送數は四百十一個、着數は四百六十二個で手小荷物發送賃金は三百九十四圓九十六錢である。

時計を窃取す

石城郡内郷村字宮大竹德次郎方から去る三月一日午前六時頃クローム時計一個價格七圓を窃取した犯人は茨城縣茨城郡常盤村生れ無職菊地今朝次郎（二四）の所爲と判明八日平署に檢擧された。

岩間に溺死体

石城郡植田町岩間海岸に十一日午前十時頃腹掛に股引をつけた年齡三十位の男の溺死体の漂着してゐるのを通行人が發見、届出により植田署員檢視を遂げたが何處の者とも判明しない。

鈴木縣議實母長逝

縣會議員鈴木長三郎氏實母石城郡高久村大字下高久箱崎アサ（八七）は病氣中の處十一日午後一時死去した。葬儀は十四日午後二時自宅出棺同村地藏院で營む筈である。

塵捨て立小便を防ぐ

お稲荷様の立札

平町役場苦し紛れの妙案

平町仲町所有地内のやがて町役場が建てられるあたりは、現在塵捨て場同様になつて常に塵芥は山をなして居るが、この山積した塵の上に十日何者とも知れぬ者がお稲荷様の繪をかいた立札を數枚立て去つた、その傍には「塵捨る可からず、平町役場」の札も立つて居りあだかもお稲荷様の神地だから汚物を捨てるなと言ふやうだ、これを見た附近の人達は捨てやうとした塵を捨てかね立札をのぞき込み、立小便ははんぱとなり、通りがゝり婆あさんは立止まつてムニヤ〳〵拜むと言ふ始末、さてこのお稲荷様は何處からお越しになつたものか調査の歩を進めて見ると平町役場がこの處に塵捨てるべからずの禁札のかはりに立てたことが判明した。お稲荷様ともなれば靈驗のあらたか驚くべきで忽ち塵なげを立小便は中絶したが御本体判明の曉、御利益が何時まで續くか面白い。

磐高女校

三年旅行通信

第二信

まだ雪の消えない山々をながめながら、中宮祠、立木觀○に參拜し樂しく一夜を過した湖畔に別れを告げて白樺の林を通り、九十九折の坂を下り十一時日光へ着きつた。一時間位休息して東照宮に參りました。お宮の彫刻の細密なのと色彩の美しさとには深く心を打たれ裏ました、眠猫の小さいのにはすつかり期待を裏切らてしまひました。此處へは多くの感嘆詞を殘して含滿が淵へ行きました、巖と水との配合は誠に良く、もう少し水量が豊かであつたらどんなに莊觀であつたらうと思ひました。四時半一同元氣に宿につきました。

ハガキ集

（投書歓迎）

▲四倉町ことに仲町邊に大變に「ベッタ」とか「バッタ」等が著しく流行になつた様がす、殊に私の家の邊等は丁度「ベッタ」の營業店の様です、私達等が追拂〳〵ども恰も鷄の如く去つては來る、實に困つたものですね、私達の御客様に迷惑です、それに夫々の教師達は内何斯の如きいかゞはしい遊方を取止める事が出來得無いのですか、斯の如き遊び方は止めて戴きたい教師達の戒めを希望す（TN生）

▲本當の事か嘘の事かは知らないが、○丁目の親父が養女○の尻を旺んに追ひ廻してゐるとかで、女には他に男が付いてゐると云ふので親父さん嫉妬？を起して、女を慘々苛めてゐると云ふ噂だが、世間の奴は兎角五月蠅のものさ、本當だとすれば許して居けない不德漢である。（風來坊）

▲譯のわからない唄を、毎日得意になつて唄つてゐる建具屋の職人さん、不名譽な聲を張り上げたとて少しも褒めやしない、近所の娘達はアナタの唄を唄ひ初めると流場に椽下を開けたりして心配さうな顔してゐるとか、不思議だと思つて娘さんに聞いて見ると一糠味噌が腐らないかと心配して居るのさ」「成る程」さりとは知らない職人さん恥しい話さ。（余聞生）

謹告

鈴木幸一

右之者八日限り解雇仕候間弊店に何等關係無之此段謹告仕候

昭和五年五月九日

平町字二丁目　藤市蒲鉾店

御得意様各位

平田町　さぐち果物店

共存共榮
簡易ノ金融
趣味ノ貯蓄
誠意ト堅固

内縣
至ル所ニ取扱所アリ
何時デモ申込下サイ
絶エズ會員ヲ募リマス

磐城無盡會商會

佛國マルソー會社元詰
生葡萄酒
マルソー・ブランク・白
マルソー・ルージ・赤　£1.10
良品にして安價賣行飛ぶが如し
西村屋藥局

當選御禮

家屋税調査委員選擧に際しては多大の御同情に預り御蔭を以て當選仕候段奉深謝候先は不取敢御禮迄如斯御座候

平町字紺屋町　馬目玉彌

移轉廣告

店舗改築中三丁目横町藤市鉾蒲店向ヒ一時移轉致シマシタ

移轉中大特賣

夏トンビ・レンコート・合着背廣……大見切
小學生通學服……五十錢
作業ズボン……六十錢
黒セルト上衣……四圓
夏ンビ……七圓五十錢
男女ゴム引マント……一圓五十錢
中學生通學服。小學生通學服……特賣

平町三丁目（佐川洋服店横）
假營業所　正札堂洋服店

新入學期と時計

時計は大谷

器械部戰線異狀なし

優良なる器械で安く

殊に學生は元價提供

平三番　電話一九番　大谷時計病院

徒弟募集

一家具　見習徒弟　五名

本年尋常又は高等卒業者

右希望者は履歴書御送附を乞ふ

平町　丸はん家具店製作部

三春の行樂麗かなお裝ひに!!

御用命は何卒三井へ

京セル御召　錦紗小紋　羽二重帶側
本セル銘仙　着尺モスリン

時節品豊富に前揃へて御座います

三井呉服店

和洋銅鐵金物問屋

釜屋商店

諸橋守次
諸橋元三郎
電話九番・一三九番

創業廣告

今般時代の趨勢に鑑み合資會社高橋商會を創業いたし左記營業種目に依り親切第一主義を以て營業致す事と相成候間何卒御利用御用命の程お願申上候

營業種目　燃料　木材
金融　仲立

平町白銀町
合資會社　高橋商會
電話六三八番
代表者　高橋龜松

一葉印刷所

平町字仲町
電話七三四番